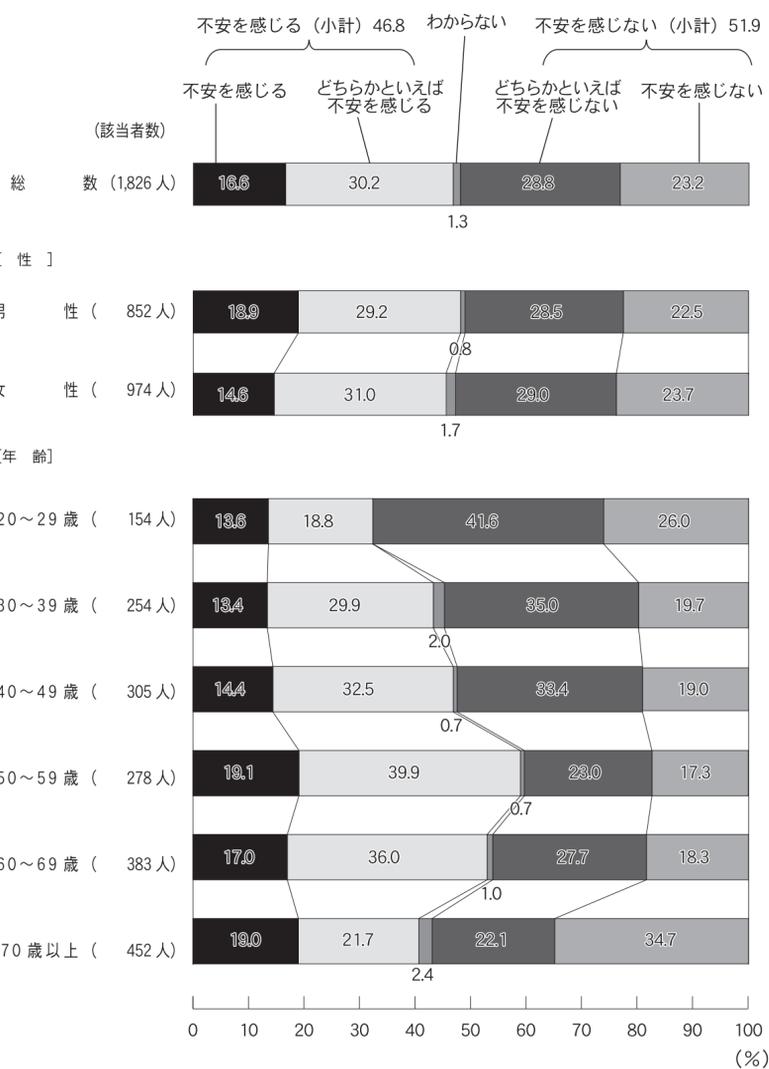


# 内閣府・日本の将来像に関する世論調査

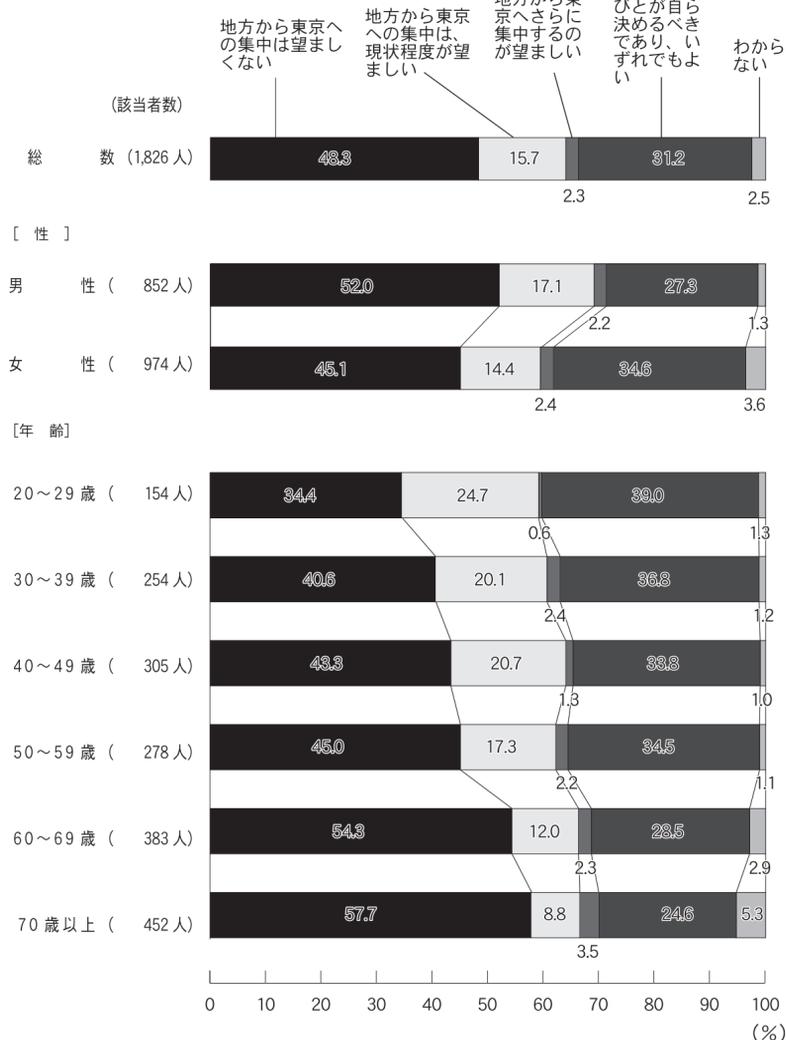
## 今後の地域社会

# 地域の将来に不安47%、担い手が不足

### 地域の将来に対する意識



### 東京一極集中に対する考え方



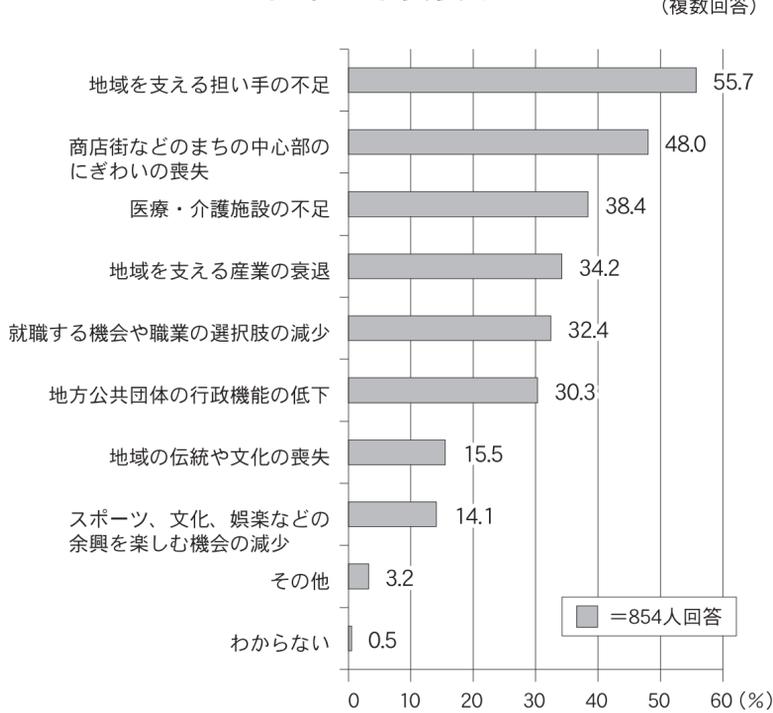
内閣府はこのほど、「人口、経済社会等の日本の将来像に関する世論調査」の結果をまとめた。調査項目の一つが「今後の地域社会のあり方について」。地域社会の将来に不安を感じる人は、約半数に及ぶことが分かった。地域が活性化するために期待する政策では、福祉・医療の充実、新産業の創出などが上位で、観光・交流の促進を挙げた人は全体の約2割だった。

同調査の回答者は、20歳以上の男女1,826人。

地域の将来に対する意識  
 「居住している地域の将来に不安を感じるかを聞いたところ、「不安を感じる」「どちらかといえば不安を感じる」の割合が46.8%だった。都市規模別では、小都市、町村で「不安を感じる」の割合が高かった。

将来の不安要素  
 「不安を感じる」「どちらかといえば不安を感じる」と答えた人に不安を感じることを聞いたところ、「地域を支える担い手の不足」が55.7%で最多。以下は「商店街などのまちの中心部のにぎわいの喪失」が48.0%、「医療・介護施設の不足」が38.4%、「地域を支える産業の衰退」が34.2%、「就職する機会や職業の選択肢の減少」が32.4%、「地方公共団体の行政機能の低下」が30.3%、「地域の伝統や文化の喪失」が15.5%、「スポーツ、文化、娯楽などの余興を楽しむ機会の減少」が14.1%、「その他」が3.2%、「わからない」が0.5%だった。

### 将来の不安要素



### 地域が活性化するために特に期待する政策

